

R-18
ADULT ONLY!

小さな恋のマドロス

あの頃好きだった女の子は
大人の匂いがした。
握る手、濡れた唇、
そして未成熟な割れ目を...。
いつもと違った君を
僕は目撃する。

ByousatsuTanukidan
秒殺狸団



「小さな恋のマドロス」

クラスの女子を見て、訳も分からずムズムズする日々。

愛とか好きとかは、なんとなく理解できるが

例えばチューをしたとして、その先に何が続くのか、全く想像もできない頃の話。

小学校の担任Mは、スカートめくりをする男子生徒（僕たち）に向かって

「それは犯罪に繋がる行為だ！」と怒鳴った。

なぜ犯罪行為に繋がるのか、と口答えする僕に彼は言う。

「スカートは下着を隠すが、下着は何を隠していると思う？」

僕らはなにも言い返せなかった。

なぜならその部位の名称を口にだしてはいけない、もしくは何とつか知らないからだ。

この国の子供達はそう言う教育を受けている。

僕たちはぐうの音も出なかった。

それから担任はスカートめくりの先にある犯罪行為について

とある白人男の告白を書いた小説を例に話し始めた。

主人公の白人男ハンバートが少女マドロスの禁断の果実に手を伸ばし、逮捕されると言う話。

僕らはもう二度とスカートめくりをしなかった。

少し後になって分かった事だが、その話は「ロリータ」という小説で

ハンバートは少女に手を出したから捕まったのではなく

彼女を寝取った男を殺したから逮捕されたのだ。

担任Mは塀の中にいる。

僕は山本萌と手を繋いで登校している。

少し前にちょっとした事件があった。

このあたりには、登校途中に飴をくれるおじさんがいて
口癖が「だいじょうぶ、だいじょうぶ」だったので
僕たちはだいじょうぶおじさんと呼び慕っていた。
特別懐いていた萌が、そいつと遊んで登校しない事があり
警察沙汰になったのだ。

それ以来彼女と手を繋いで登校するよう
萌の両親から頼まれている。

「あのねあのね
昨日先生がね〜」

「最近先生の話多いな……」

嫌がりもせず、むしろそれを
楽しんでるように見える彼女に
僕はドキドキしていた。



誰もいない教室で、
彼女のブルマをこっそり嗅いだことがある。

かすかにおしっここの臭いがした。



授業中の彼女は授業など全く聞かず
周りの男子と手紙のやりとりをしている。

前の席の僕はモヤモヤした気分になった。



どことなくでも彼女を目で追ってる
こんな僕は、もしかして変態なんじゃないかと
不安になる事もあった。



水泳の授業中は、水着の股間からしたたる水が
おしっここのように見えた。

夏の日の避難訓練。

机の下に隠れて彼女は言った

「避難訓練ってなんかワクワクするね」

不謹慎にも僕はその言葉でドキドキした。
そして彼女の丸見えのパンツを見て勃起した。

おかしにするなんて
知らなかったあの頃。
彼女が目線を外す隙に
必死に股間を目に焼き付けた。

それはなんだか
宝物のように思えた

僕は彼女が好きだ
って事に気がついた。





チュパチュパと
口を吸い合う音が
教室に広がっている。

僕の知っているキスは
口と口を合わせるだけで
こんな風に舐め合ったりしない。

これが大人のキスなのか……
僕は漠然と思った。



キス
上手くなったな

「だって気持ちいいんだもん」



出すぞ山本

「……せんせえ」

「せんせえ〜」



萌の下半身から
どろっとした液体と一緒に
見たことも無い大きさの
チンポが抜け出た。

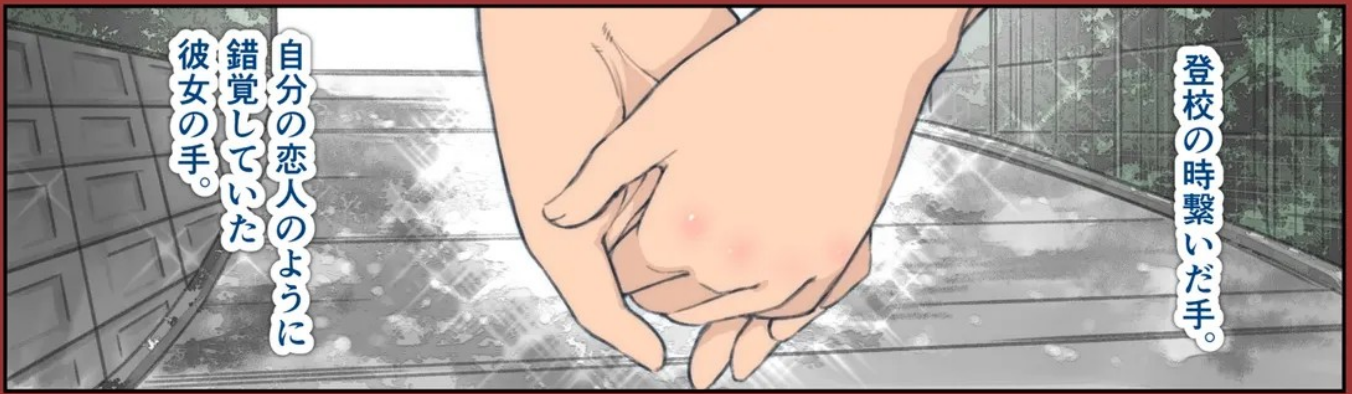
二人はキスを
していたんだよね？

混乱しながら
自分のとは
比べものにならない
大きさのそれに
僕はものすごい
シヨックを受けた。



慣れた手つきで股間を拭く彼女を見て
今回が初めてじゃ無いと理解した。

二人はセックスをしていたのである。



登校の時繋いだ手。

自分の恋人のように
錯覚していた
彼女の手。



放課後その手は担任の
チンポを掴んでいた。

「先生気持ちいい??」

上手いぞ山本

ああ・そこそこ……



登り棒をこするような
手つきで、大人チンポを
触り続ける萌。

やや黒い担任のチンポの先は赤く充血し
普段ぶらぶらとしているはずの金玉が
上へ持ち上がっているように見えた。

自分では動いてないのに
ハアハアと息を荒げ始めた。

これはどう見ても気持ちが良いと言うことだろう。



下校時の買い食い。

ジュースを飲む
少し濡れて
つややかな彼女の唇。



今は担任のチンポに
口づけしている。

ちゅっ♡

こりやすごい
誰にやり方
教わったんだ？



「れろれろれろれろ」

ブルブルッ

あ、でる



「それは内緒♡」

はあはあ

はうっ！

先生変な声
でちゃった



「んふふ♡」

おおっ



君は無邪気に僕を魅了した。



何度も目に焼き付けた彼女のパンツ。



そしてその布の中の
割れ目を妄想した。

でも憧れた割れ目には
担任のチンポが
刺さっていく。

くっくっく

みちみち

割れ目を広げて
深々と進む黒い塊。

「せんせえ、もっと
やさしくしてえ♡」

グッ

くっく

山本どうだ
何がどこに
入ってる？

ギョ

「チンポ！
せんせえのチンポが
萌のおまんこに……
奥に届いてる!!」

ズブズブ

ズブズブ

くっく
ゴリゴリと
締め付けて
きやがる

ゆ

ゴツ

そうか。大人と子供だから、
全部入りきらないんだ。



「こんな格好やだあ」

こうすると
もーっと奥まで入って
気持ちいいだろ

ギョ
ギョ
ギョ

「ほんとだ♡
全部こすれて
すっごいこれ♡」

「ウツツ♡せんせ…
萌こんな早く♡」

「飛んじやう!!」



「いうツ!!」

ドクン♡
ドクン♡

びゅん♡

締まる!!



「すっごい気持ち良くて
あたまバカに
なっちゃいそうだった…」

はあ

はあ

フポポ

これがセックス…
セックスって凄いエロい…



「え!? せんせえ!!
外から見えちゃう!!」

ミヤッ

「はずかしいよお」

ポタッ



おいおい
締め付けが
凄いぞ?

こんなんで興奮して
変態んじゃないか?

「わたしヘンタイなの!!
すごい...きもちいい...
でも見られちゃう!!」

キキキ

ククク

ミニミニ

キキキ

キキキ



静かにしろ
気づかれるぞ

ゆき
ゆき

「やあああ(見られちゃう!!)
(見られちゃうよ!!)」



それじゃ
これならどうだ

「え!？」



「だめええええ、気持ち良すぎて
おまんこおかしくなっちゃううう!!」

「見ないでえ!えっちなわたし
みないでええええええええええ
いぐうううううううう!!」

教室の窓側から覗いていた僕は
おしっこを漏らしながら
ビクビクと震える彼女の姿を見て
初めて射精した…。



担任は僕が覗いてることに
 気づいていたのかもしれない。
 あの行動は「俺の女に手を出すな」
 と言っているように感じた。
 帰り道、偶然を装って彼女を待つ。
 何事も無かったような素振りだが
 彼女はさっきまで担任とセックスしていたのだ。
 僕は先日死んだ犬の事を思い出して
 必死に平静さを装った。

「一緒にかえろ」

無邪気な彼女を見て
 僕はなんだか浮気されたような
 気分になった。

タイトル：「小さな恋のマドロス」
 発行日：2016年8月14日(2022年11月再販版)
 発行者：佐伯達也
 メール：saeki@usagidan.com
 Twitter:tomita1988
 印刷所：イロドリ様



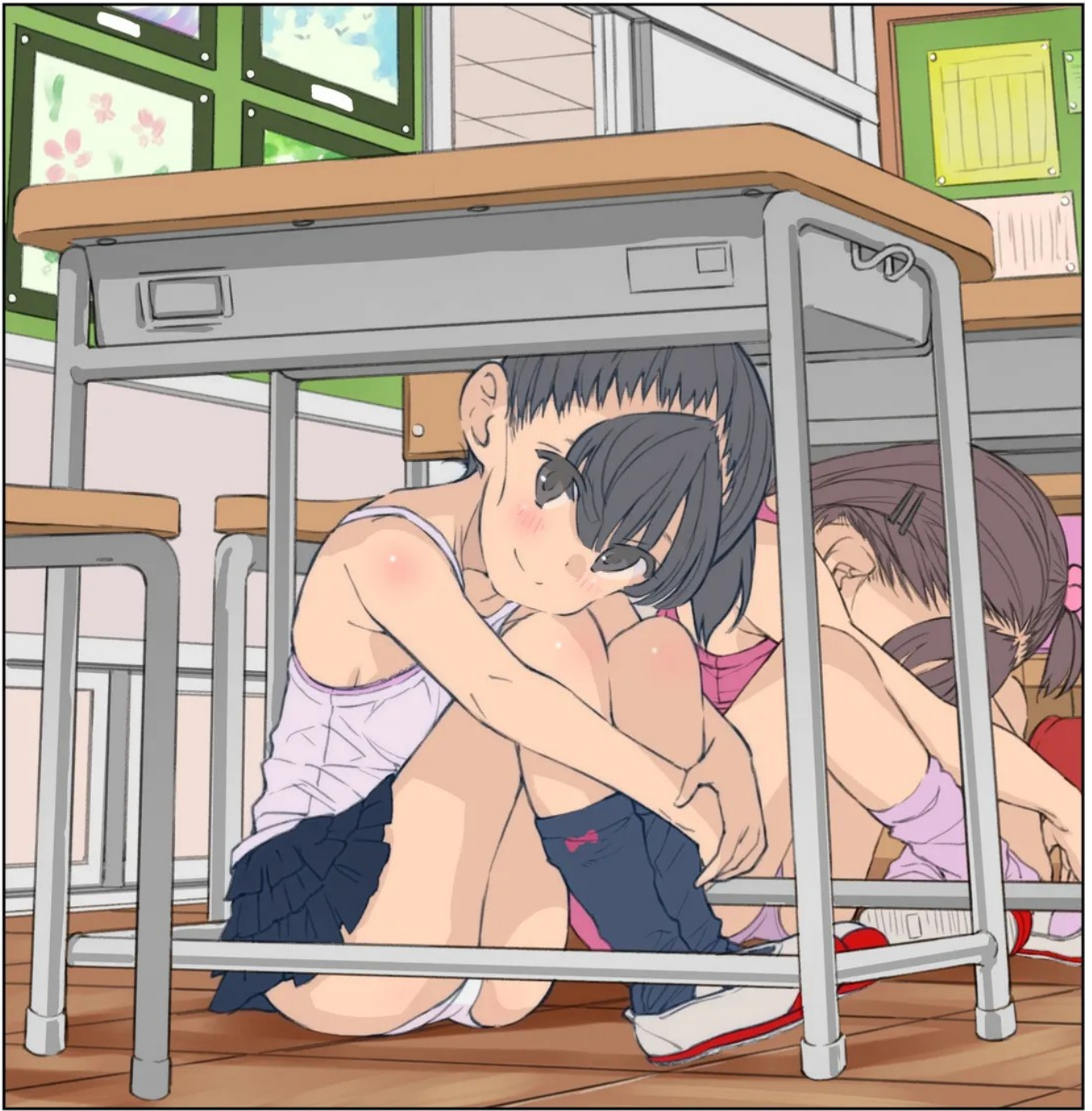
もちろん帰り道も手を繋ぐ。
 ケラケラと笑い
 会話をしながら
 顔を近づける彼女から、

はつきりと
 大人のツバの匂いがした。



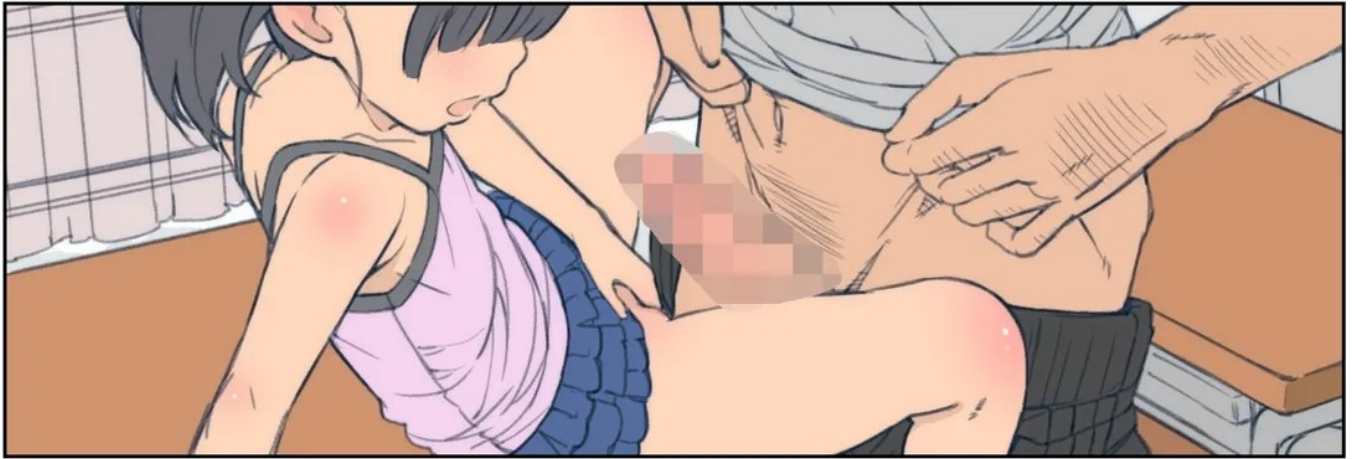


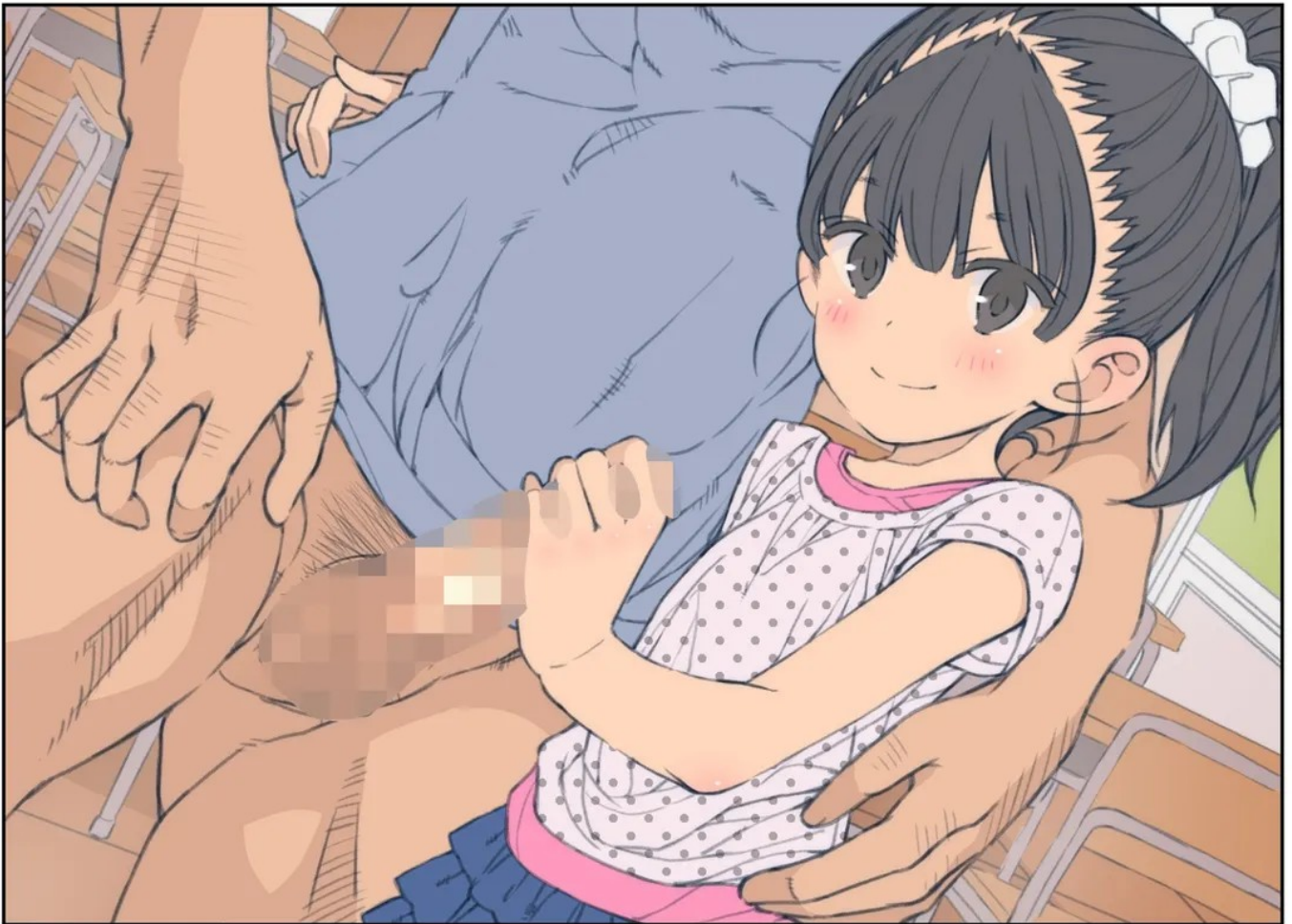
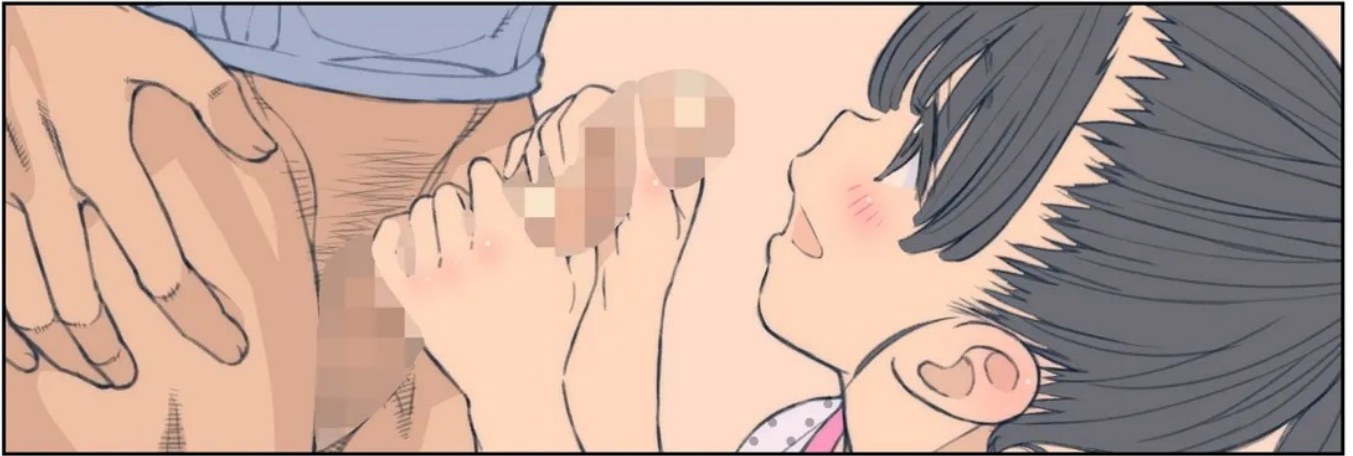
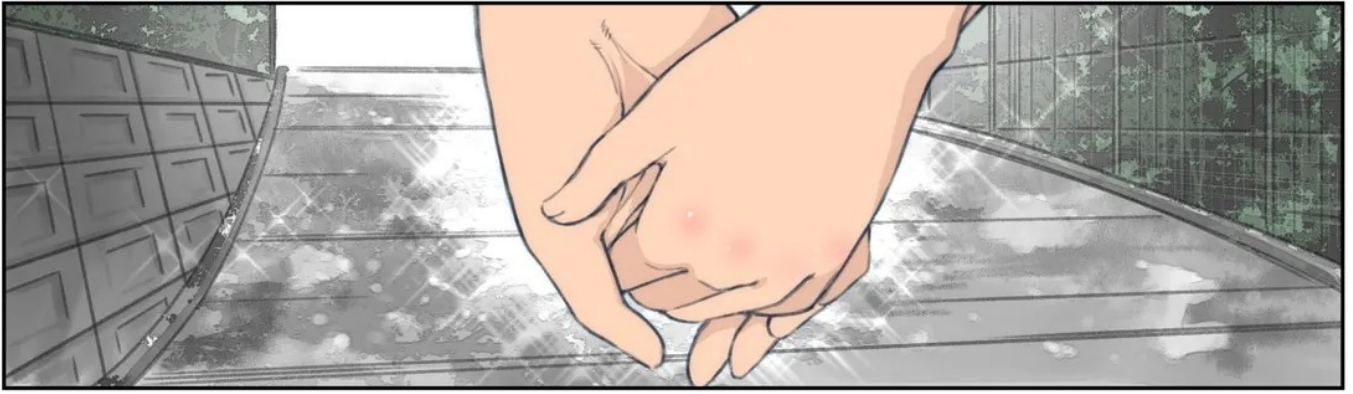


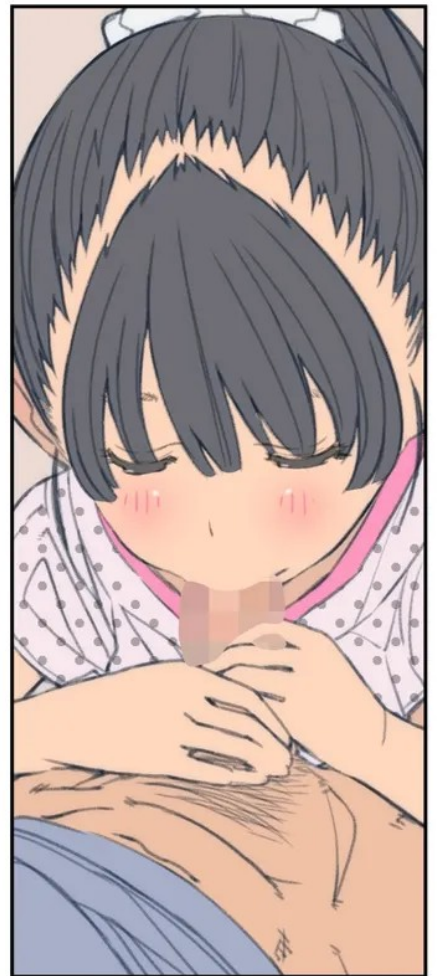


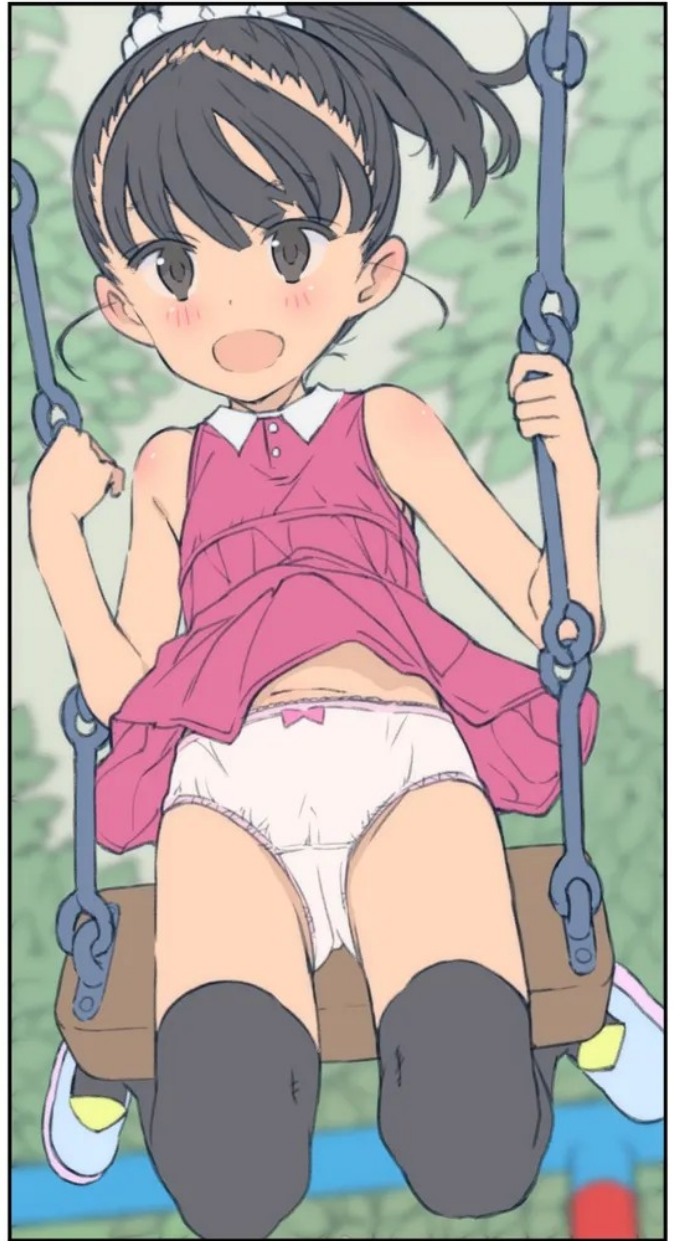


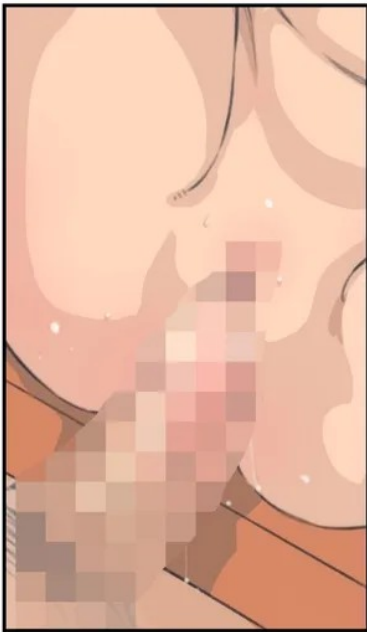
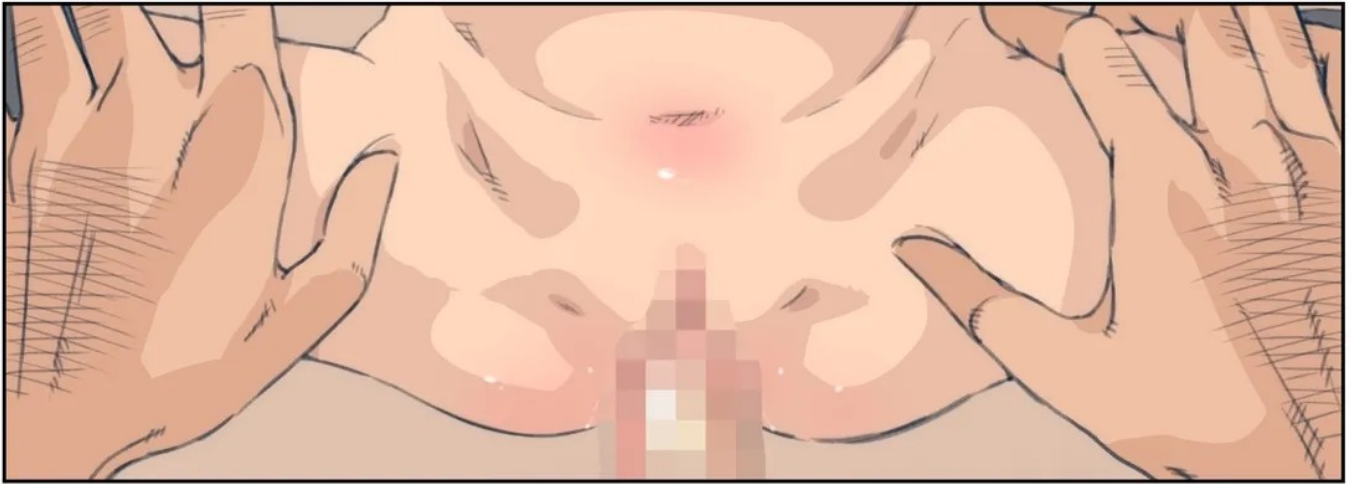


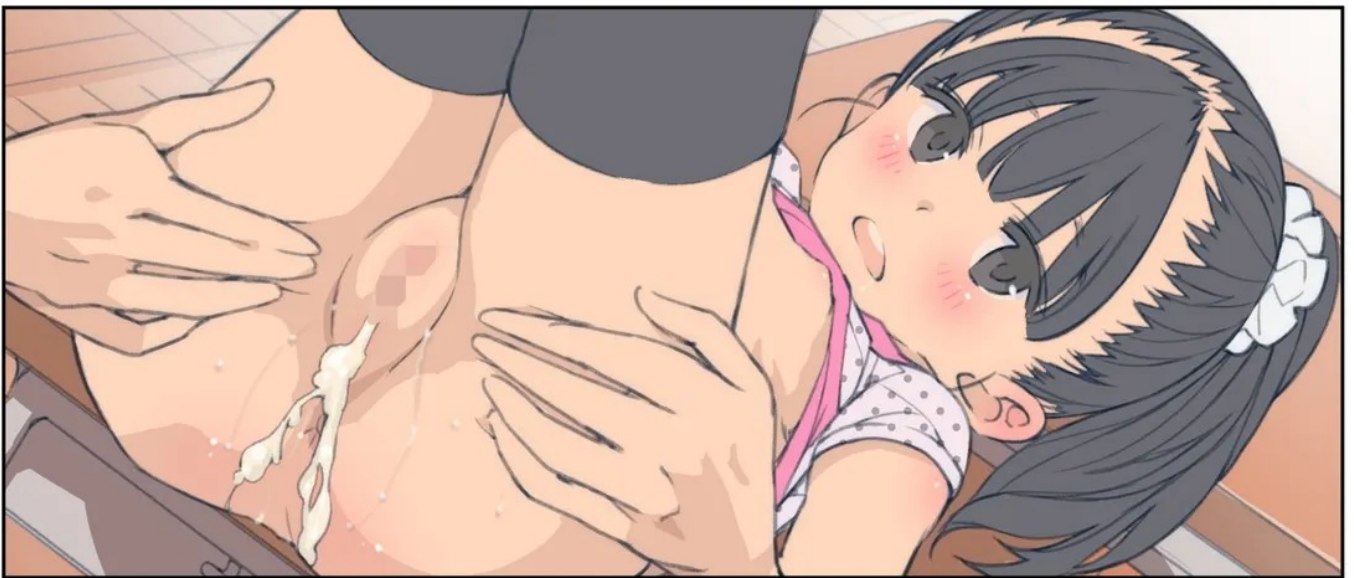
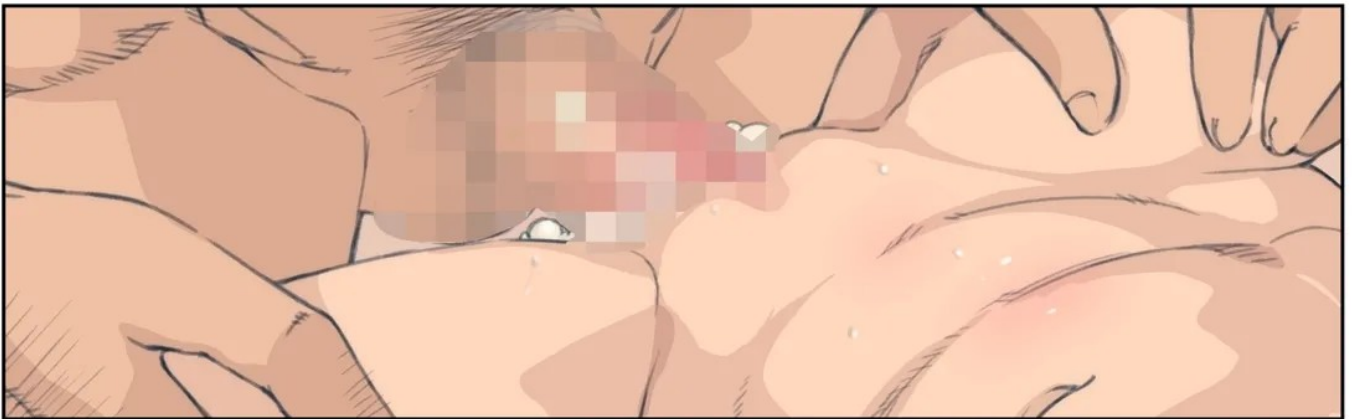


















あとがき

マドロス学園シリーズ第四弾です。

台詞無しページなど無修正ものがHDDより発掘できたためPDFにまとめました。

とりあえず支援サイトにアップしておけば

これ以上紛失する心配もありませんし。

そんなこんな目的で、今後もこのような感じでPDF化し頒布していこうと思ってます。

初期のものは昔すぎて画力的にも恥ずかしいのですが読んでいただければ幸いです。

何処とは言えませんが作者の実体験が少し混ざっております。

何処でしょうね・・・w

今後の作品も順次PDF化していきますのでよろしく。

タイトル：小さな恋のマドロス(PDF版)

発行日：令和5年4月8日(土)

発行者：佐伯達也

Twitter：tomita1988

E-Mail:saeki@usagidan.com

違法アップロードは犯罪です。刑事罰により懲役若しくは罰金が科せられます。また違法ダウンロードも同様に刑事罰が科せられます。絶対にやめましょう。